

1 社会・治安情勢

- (1) 2017年11月に実施された大統領選後、開票プロセス等をめぐって全国各地で大規模なデモや道路封鎖が実施され、警察部隊と衝突する事案も多く発生した。
- (2) 2019年中は、4月末から6月末まで、教育・保健システム転換・再構築法案の反対や関連法案の廃止を求めた教育・医療従事者によるストライキやデモ・道路封鎖等の抗議活動、大型貨物の料金所通行料金の値下げを要求した運送業従事者による全国規模の道路封鎖等が頻繁に実施され、一部参加者が、警察部隊への投石、公共施設等への放火や襲撃、商店等に対する略奪行為が行われるなど暴徒化し、死傷者も発生した。6月中旬には、警察官の処遇改善を求め、国家警察の一部警察官によるストライキが発生した。
- (3) 10月上旬から11月上旬にかけて、現大統領実弟の有罪判決を受けて、テグシガルパ市を中心に抗議活動が散発した。
- (4) 現在、上記関連のデモは沈静化しているものの、今後、新交通法の制定、選挙法の改定等、一部の国民の反発を受けて、再度、デモが活発化する可能性は否定できない
- (5) 昨今では、学生活動家グループ（※特にホンジュラス国立自治大学（UNAH）グループ）が他の活動等に便乗してデモを実施し、タイヤを燃やす、投石する等暴徒化している。4月以降のデモや道路封鎖でも、公共施設や飲食店等への放火や襲撃等の多くが、同学生活動家グループが関係していると報じられている。
- (6) 引き続きデモ及び道路封鎖箇所には近づかない、移動に当たっては事前に当館領事関連情報（領事メール等）をチェックするなど注意を要する。

2 一般犯罪、凶悪犯罪の傾向

- (1) ホンジュラス国立自治大学暴力研究所（OV-UNAH）によると、2018年中の殺人事件発生件数は、3,733件（前年比-133件）、10万人当たりの殺人死者数（以下、「殺人率」と称す）は41.4人（同-2.2人）と減少傾向にあった。しかし、当国の殺人率は、中南米・カリブ諸国21ヶ国中4番目に悪く、依然として高い水準であることに変わりはない。
- (2) 国家警察犯罪統計局（SEPOL）及びOV-UNAHによると、2019年に発生した殺人事件による被害者数は前年と比較し300人近く増加し、概ね4,000人前後。殺人率も概ね43人前後になる見込みで、2012年以降減少傾向にあった殺人率も初めて増加に転じる見込み。
- (3) 殺人事件の約70%は銃器を使用したものであり、また、約40%が午後6時頃から午前0時までの夜間に発生している。
- (4) みかじめ料の支払いを拒否したことによる、犯罪組織からの報復と考えられるバス、タクシーなど公共交通機関関係者に対する殺人、銃撃、放火事件も引き続き発生しており、「ラピディート」と呼ばれるマイクロバス（公共バス）や流しのタクシーは使用せず、安全な交通手段（無線タクシー等）での移動を勧めている。
- (5) 銃器を使用した強盗事件も、引き続き首都圏全般で発生しており、徒歩での移動も極力避け、車両での移動を勧めている。
- (6) 2018年中の窃盗・強盗事件は、14,384件（前年比+2,193件）で、1日平均約65件発生している。警察に届出る文化も根付いていないことから、数値以上に発生していると思料される。
- (7) コカイン、マリファナが大量押収されるケースは続いており、東部密林地帯等で薬物精製所、密輸用滑走路も発見されていることから、当国が、他の中南米諸国からの薬物の中継地及び精製拠点として位置付けられている状況は変わっていない。最近では、国内でマリファナ等の栽培も確認、摘発されている。

3 最近の邦人及び邦人以外の被害事案

(1) 邦人の被害事案

特になし。

(2) 邦人以外の被害事件

ア 10月1日早朝、テグシガルパ市コマヤグエラ地区のバス停で、ヌエバスヤパ～U N A H～メルカド間の乗り合いバス(ラピディート)2台が襲撃された。バス内は無人であったため、負傷者等はなし。

イ 10月3日、ジョロ県オランチート市において、警察官の制服を着た男らが民家を訪れ、住民男性を銃で殺害した。

ウ 10月8日、フランシスコモラサン県レパテリケ市において、レパテリケ行のバスが終点に着いたところで、乗客を装い乗車していた2人組男性がバスの集金人を銃で殺害した。

エ 10月31日、コルテス県サンペドロスーラ市において、警察(D P I)の制服を着た男らが、男性を銃で殺害した。

オ 11月5日早朝、テグシガルパ市コマヤグエラ地区において、A T I Cの制服を着た男らが民家を訪れ、住民男性を銃で殺害した。

カ 11月7日早朝、コルテス県サンペドロスーラ市において、警察の制服を着た男らが民家(アパート)を訪れ、捜査を口実に室内に侵入、室内にいた男性4名を銃で殺害した。

キ 11月30日、コルテス県プエルトコルテス市において、バス車内で強盗犯人が乗客から金品を強取中、銃を発射し、乗客男性1名及び女性1名が負傷した。

ク 12月3日、コルテス県プエルトコルテス市において、走行中のバス車内に乗客を装い乗車していた強盗犯人2名のうち1名が運転手を射殺。バスは制御

を失い他の車両と衝突し、乗客2名が負傷した。

ケ 12月7日、コルテス県サンペドロスーラ市の商店に、警察（D P I）の制服を着た3人の男性が訪れ、店主を銃で殺害した。また、同店主の父親と犯人との間で銃撃戦が発生し、付近にいた男性が流れ弾を被弾し死亡、店主の父親も負傷した。

コ 12月12日午後、テグシガルパ市コマヤグエラ地区において、カリサル～U N A H～ラソサ間の乗り合いバス（ラピディート）が2人組男性に襲撃され、運転手が殺害された。

サ 12月15日、テグシガルパ市コマヤグエラ地区において、SNS（フェイスブック）を通じ知り合った女性に会いに行った男性が、殺害され袋に詰められ遺棄されている状態で発見された。

シ 12月20日夜間、テグシガルパ市コマヤグエラ地区において、銀行から現金を下ろした男性が、何者かに現金を強取され銃で殺害された。

ス 12月27日、ロアタン島でホテルに勤務する従業員が、売上金を銀行に預けに行く途中、覆面をした強盗犯人に襲撃され、重傷を負った。

4 テロ・爆弾事件発生状況

特になし。

5 誘拐・脅迫事案

日本人に対する被害はなし。

6 日本企業の安全対策に対する諸問題

(1) 一般的にホンジュラス人の対日感情は大変良好であり、日系企業をターゲットとしたテロ等の発生可能性は低い。しかし、日本人企業家を対象とした強盗

等は過去に発生しており、一般・凶悪犯罪に対しては十分な注意が必要である。

- (2) 危険度 2 地域に、商用等で来訪する場合には、事前に十分な情報を収集し、適切な安全対策を行うことが重要である。
- (3) 犯罪被害に遭わないためには、国内の危険地区を十分に把握し、その地区には近づかないことが肝要である。当該地区での業務予定がある場合は、現地治安機関及び日本大使館から十分な治安情報を収集することが重要である。